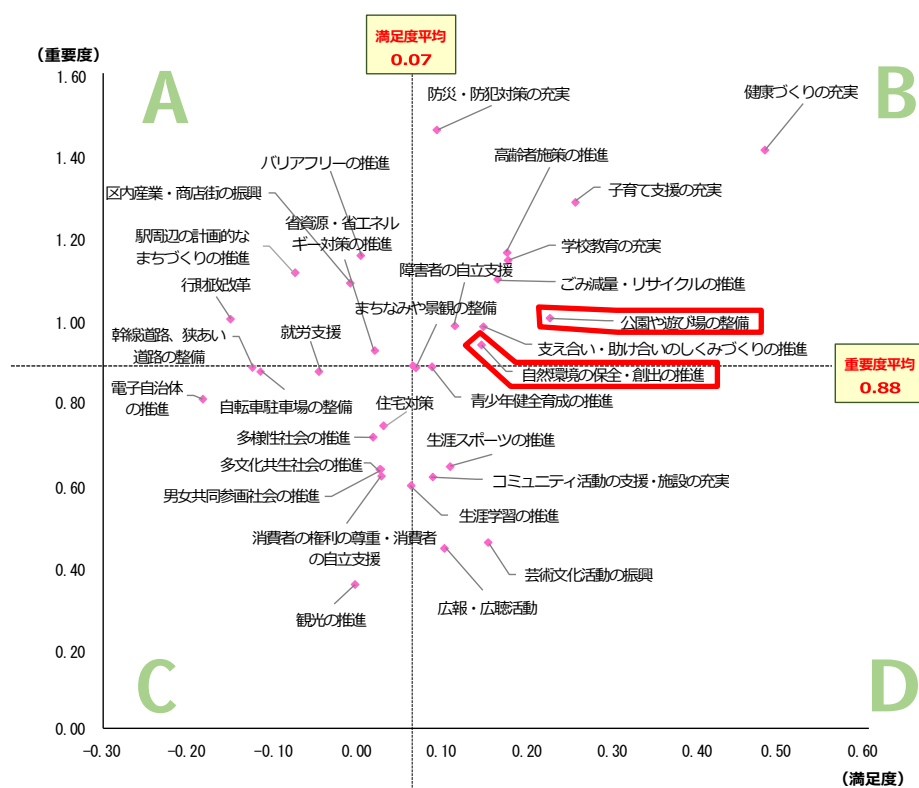


2. 北区の概況

2.1 区民意識

- ・ 緑に関する施策については、「公園や遊び場の整備」「自然環境の保全・創出の推進」があげられ、区民の満足度・重要度がともに高いB領域にある。
- ・ 区のイメージとして「自然環境に恵まれている」と2割以上が回答、将来像として「水辺やみどりなどの自然環境に恵まれている」と約2割が回答している。
- ・ 快適な生活環境への取組みのうち、緑に関する項目で、区が力を入れるべきこととして、「公園や遊び場の整備」に約3割が回答している。

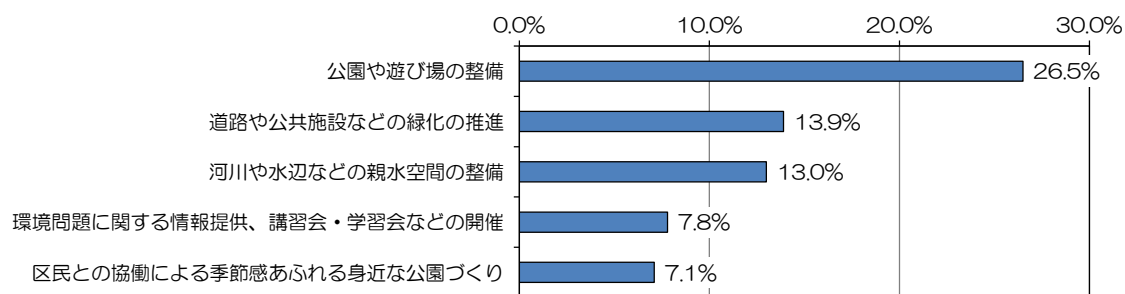
出典：北区民意識・意向調査報告書（令和3年10月）



A：満足度は低い、重要度は高い B：満足度・重要度がともに高い C：満足度・重要度がともに低い D：満足度は高い、重要度は低い

出典：北区民意識・意向調査報告書（令和3年10月）

図2.1.1 区の施策の満足度と重要度の相関



出典：北区民意識・意向調査報告書（令和3年10月）抜粋

図2.1.2 快適な生活環境への取組みのうち、緑に関する項目

2.2 自然的条件

(1) 位置

- ・ 東京都区部の北部
(北：埼玉県川口市と戸田市に隣接、西：板橋区に隣接、
東：荒川区と足立区に隣接、南：文京区と豊島区に隣接)
- ・ 面積：20.61km² (東京都総面積の0.94%、区部の3.28%)
東西に約2.9km、南北に約9.3kmの細長い形状



図2.2.1 北区の位置

(2) 地形・地質

- ・ 区の中央を北西から南東へかけて崖地が伸び、この崖地を挟んで台地と低地に分かれている。
- ・ 台地は関東ローム層が堆積する武蔵野台地の北東端に位置している。
- ・ 低地は粘土と砂礫を主体とする沖積層が分布する荒川低地となっている。
- ・ 区内には4つの河川があり、区北東端を流れる荒川が最も大きい。
- ・ 荒川に次いで大きいのは、岩淵水門で荒川から分流する隅田川である。隅田川には、区北部を東へ横切る新河岸川と、区南部を東から西へ横切る石神井川が合流している。

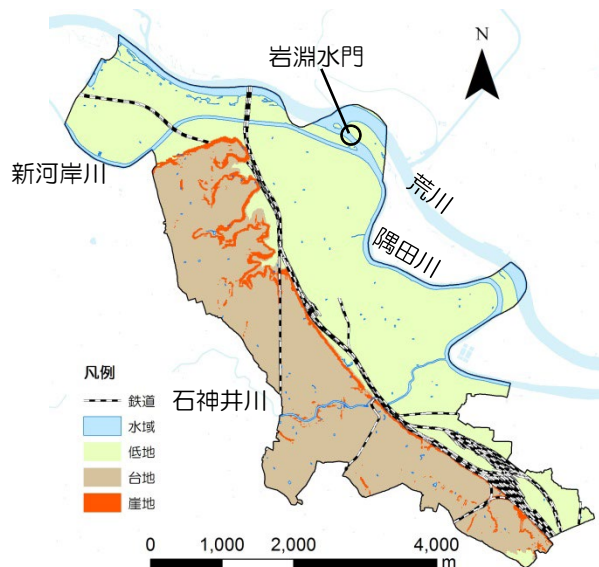
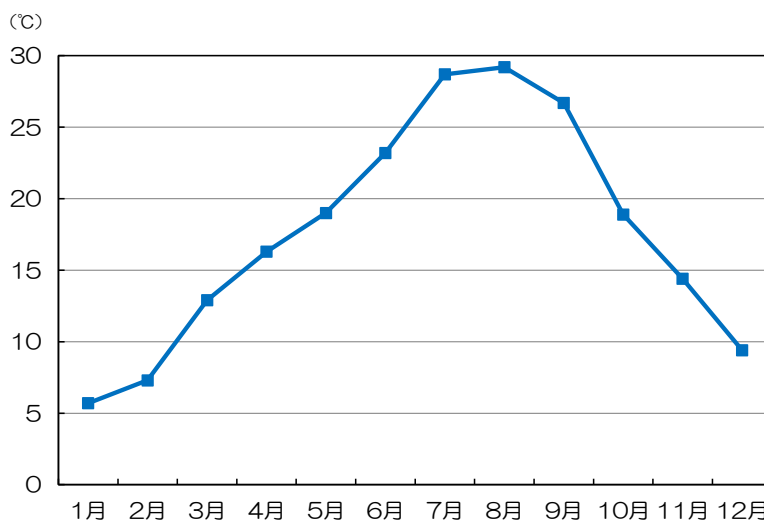


図2.2.2 地形模式図

(3) 気象

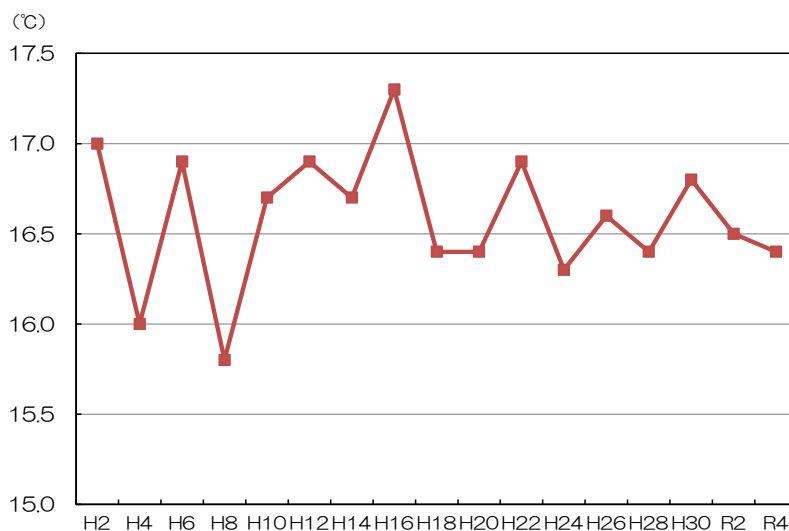
- ・ 夏は暑くて多雨、冬は寒くて乾燥するという典型的な東日本型の太平洋側気候となっている。
- ・ 東京の気温：年平均気温 17.6℃
年最低気温 -3.4℃ (1月)
年最高気温 37.7℃ (7月)
- ・ 東京の年降水量：1,396.5mm
- ・ 東京の年日照時間：2,259.2時間
- ・ 東京の年最深積雪：0cm

出典：気象庁HP 過去の気象データ（令和5年）



出典：気象庁HP 過去の気象データ（令和5年）

図2.2.3 令和5年の東京の月別平均気温



出典：気象庁 HP 過去の気象データ

図2.2.4 東京の年平均気温の推移

(4) 動植物

① 植物

年度	確認場所	確認種数	
昭和61年	維管束植物は区全域 コケ植物は公園・緑地	維管束植物	738種
		コケ植物	61種
		計	799種
平成18年 平成19年	公園・緑地	シダ植物	26種
		種子植物	675種
		計	701種
平成22～平成23年	区全域について 文献調査	シダ植物	59種
		種子植物	1,116種
		計	1,175種

② 野鳥

年度	確認場所	確認種数	
昭和63年	地区別に設けたコース上	野鳥	84種
		籠抜け等	7種
		計	91種
平成18年 平成19年	公園・緑地	野鳥	78種
		籠抜け等	5種
		計	83種
平成22～平成23年	区全域について 文献調査	野鳥	129種
		籠抜け等	10種
		計	139種
平成18～平成30年	公園・緑地	野鳥	57種
平成7～令和5年	公園・緑地	野鳥	59種 ※1

③ 魚類

年度	確認場所	確認種数	
平成元年	河川、公園、ゴルフ場	魚類	22種
平成22～平成23年	区全域について文献調査	魚類	53種
昭和59～令和5年	河川	魚類	59種 ※2

④ 昆虫

年度	確認場所	確認種数	
昭和62年	公園・緑地	昆虫	525種
平成19年 平成20年	チョウ類、トンボ類、セミ類 は区全域、その他は公園・緑地	昆虫	343種
平成22～平成23年	区全域について文献調査	昆虫	775種

⑤ 小動物

年度	確認場所	確認種数	
平成元年	公園・緑地	哺乳類	7種
		両生類	4種
		爬虫類	9種
		クモ類	118種
		底生動物	31種
		計	169種
平成19年 平成20年	公園・緑地	哺乳類	4種
		両生類	6種
		爬虫類	10種
		クモ類	18種
		底生動物	33種
		計	71種
平成22～平成23年	区全域について文献調査	哺乳類	11種
		両生類	6種
		爬虫類	12種
		クモ類	129種
		底生動物	50種
		計	208種

※1 北区で行っている公園内野鳥調査結果である。現在は5つの公園・緑地での目視調査を継続的に実施している。確認種数の59種は令和5年度調査結果。

※2 北区で行っている河川生物生息調査結果である。確認種数の59種は現在までの確認種数。なお、令和5年度の確認種数は30種となっている。

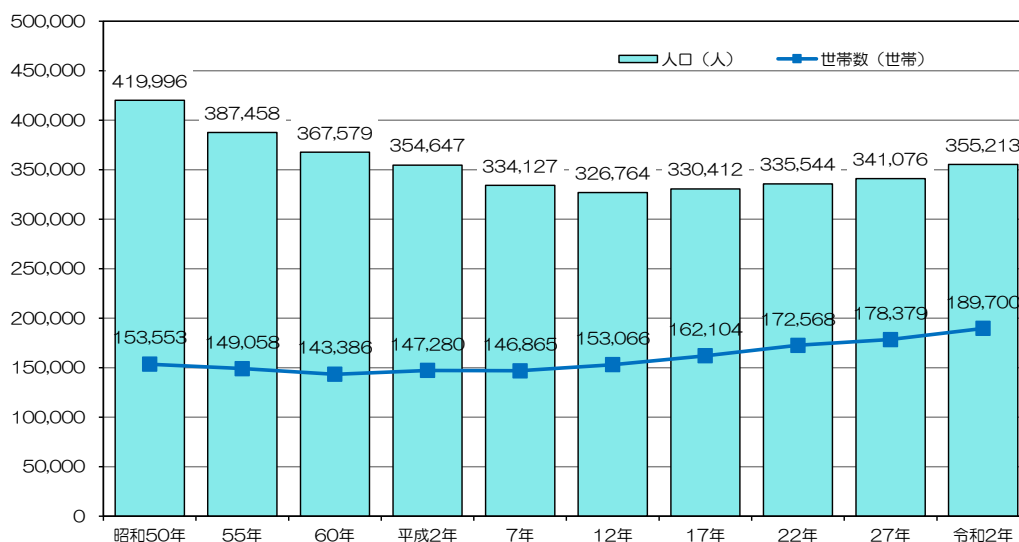
出典：『北区の環境』（令和5年8月）、『北区河川生物生息調査報告書』（令和6年3月）、『北区生物総目録』（平成24年3月）他

2.3 社会的条件

(1) 人口

- ・ 国勢調査における経年変化を見ると、人口は平成12年まで減少傾向であったが、平成17年より人口、世帯数とも増加に転じている。

出典：総務省統計局HP 国勢調査（令和2年）



出典：総務省統計局HP 国勢調査令和2年結果

図2.3.1 北区の人口の推移

- ・ 北区の令和5年4月1日現在の人口は355,170人、世帯数は204,342となっている。

出典：北区 人口統計表（令和5年4月1日現在）

(2) 土地利用

- 江戸から明治初期：区域のほとんどが農地であることがわかる。台地部では水に恵まれなかったため、畑地、荒地等の土地利用が主である。

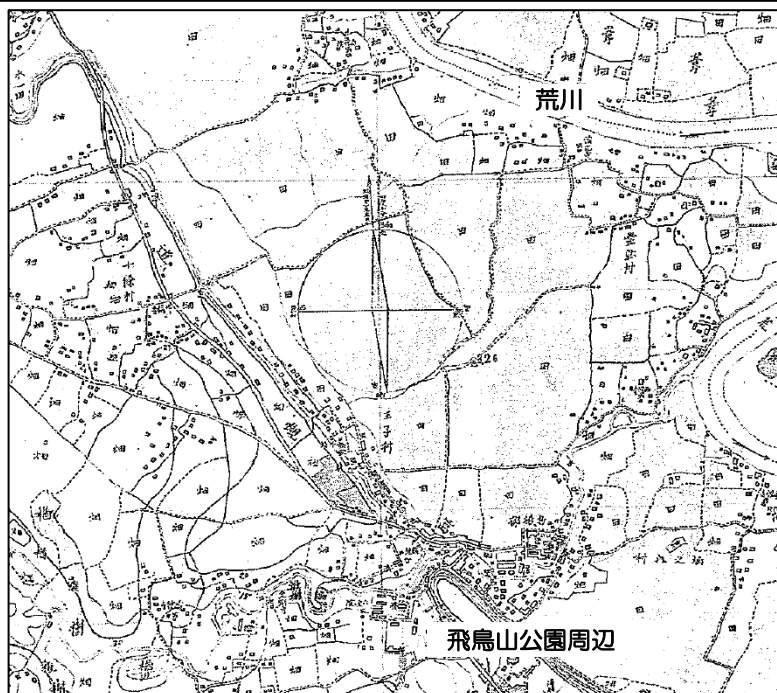


図2.3.2 明治13年迅速測図

- 明治20年頃～：工兵大隊が赤羽台に移転し、この頃から軍施設（橋、道路、軍服・兵器・火薬等の工場）が建設されている。



図2.3.3 明治42年測量地図

- 15 –

(3) 公園等

- ・ 令和5年4月1日現在の区内の公園の総数は202箇所、その総面積は1,073,747.19㎡であった。
- ・ 平成30年から、公園は4箇所、総面積で19,288.79㎡増加した。
- ・ 一人当たりの公園面積は、平成30年と同じ3.02㎡で横ばいであった。

表2.3.1 公園等の整備状況

公園種別				整備数	整備面積（㎡）
			街区公園	48	130,742.03
			近隣公園	13	234,358.93
			地区公園	2	133,263.50
		住区基幹公園 計		63	498,364.46
			総合公園	3	107,674.76
			特殊公園（風致）	1	73,788.38
			特殊公園（歴史）	2	51,193.89
			都市基幹公園 計		6
		緑地		20	258,978.05
		公園・緑地 計		89	989,999.54
	児童遊園		100	64,075.37	
	遊び場		13	19,672.28	
	総 計		202	1,073,747.19	
人口（人）				355,170	
一人当たりの公園面積（㎡/人）				3.02	

※1 人口：355,170人（令和5年4月1日現在 住民基本台帳人口）

※2 都立浮間公園（総合公園）40,866.51㎡、都立旧古河庭園（特殊公園（歴史））30,780.86㎡を含む。

※3 赤羽緑道公園は総合公園、近隣公園の双方にまたがっており整備数が重複している。

出典：北区行政資料集（令和5年9月）

表2.3.2 都市公園の種類と標準内容

種類	種別	内容
住区基幹公園	街区公園	主として街区内に居住する者の利用に供することを目的とする公園で1箇所当たり面積0.25haを標準として配置
	近隣公園	主として近隣に居住する者の利用に供することを目的とする公園で1箇所当たり面積2haを標準として配置
	地区公園	主として徒歩圏内に居住する者の利用に供することを目的とする公園で1箇所当たり面積4haを標準として配置
都市基幹公園	総合公園	都市住民全般の休息、観賞、散歩、遊戯、運動等総合的な利用に供することを目的とする公園で都市規模に応じ1箇所当たり面積10～50haを標準として配置
緩衝緑地等	風致公園	樹林地、湖沼海浜等の良好な自然的環境を形成する土地を選定して配置
	歴史公園	遺跡、庭園、建築物等の文化的遺産の存する土地若しくはその復元、展示等に適した土地又は歴史的意義を有する土地を選択して配置
	都市緑地	主として都市の自然的環境の保全並びに改善、都市の景観の向上を図るために設けられている緑地であり、1箇所あたり面積0.1ha以上を標準として配置 ※但し、既成市街地等において良好な樹林地等がある場合あるいは植樹により都市に緑を増加又は回復させ都市環境の改善を図るために緑地を設ける場合にあってはその規模を0.05ha以上とする。

出典：国土交通省 都市公園HP（令和5年）、国土交通省都市計画運用指針（令和5年12月）

(4) 街路樹

- ・ 区道 高木：5,405本
- ・ 都道 高木：4,903本（一部国道を含む）
- ・ 区道において街路樹として植栽されている樹種はハナミズキが多く、次いでソメイヨシノとなっている。
- ・ そのほか、高木以外にツツジなどの中・低木が植栽帯に植樹されている。

出典：北区行政資料集（令和5年9月）、東京都第六建設事務所事業概要（令和4年11月）

表2.3.3 街路樹樹種別内訳（区道のみ）

番号	樹種名	本数
1	ハナミズキ	1,280
2	ソメイヨシノ	947
3	イチョウ	435
4	ケヤキ	343
5	サルスベリ	306
6	スズカケノキ（プラタナス）	104
7	フウ（タイワンフウ）	207
8	トウカエデ	182
9	タブノキ	173
10	モミジバフウ（アメリカフウ）	154
11	シラカシ	146
12	ヤマザクラ	122
13	コブシ	119
	その他	887
	計	5,405

出典：北区行政資料集（令和5年9月）

(5) 商業

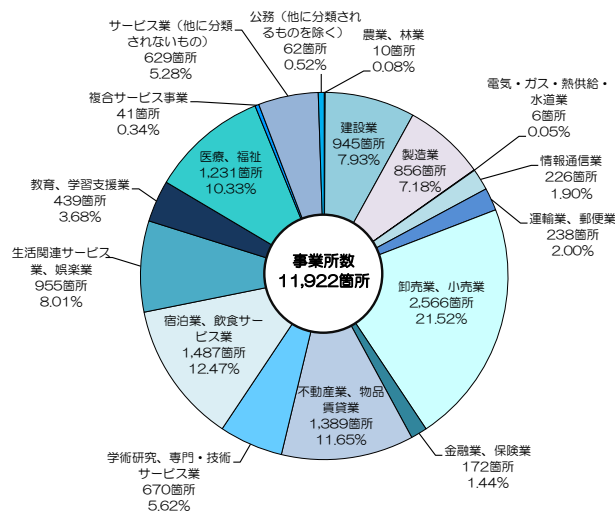
- ・ 卸売業、小売業事業所数：1,943箇所
- ・ 従業者数：20,038人
- ・ 年間商品販売額：1兆7,012億6,400万円
- ・ 事業所数を業態別にみると、飲食料品小売業が最も多く、次いでその他の小売業、その他の卸売業となっている。

出典：経済センサス - 活動調査（令和3年結果）

(6) 産業

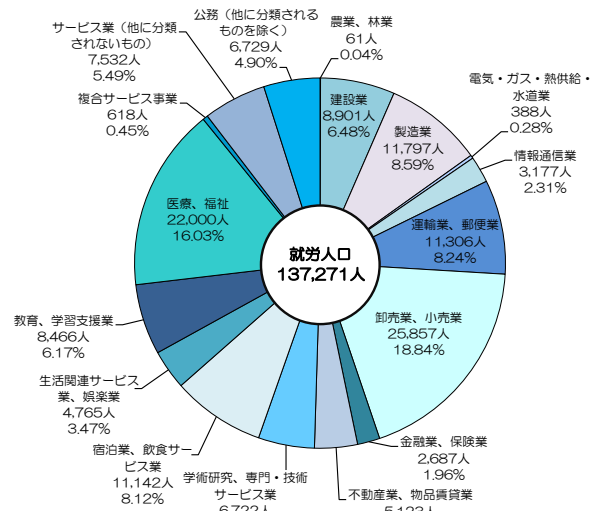
- ・ 事業所数：11,922箇所
- ・ 従業者数：137,271人
- ・ 事業所数は平成23年に増加し、その後減少傾向にあったが、令和3年に増加に転じている。
- ・ 従業者数は平成27年まで増減を繰り返し、平成30年まで微増状態が続いたが、令和元年に増加した後、令和2年に急減した。
- ・ 出荷額は平成23年に増加したが、以降は全体的に減少傾向にある。なお、令和3年は前年度に比べ微増となっている。

出典：経済センサス - 活動調査（令和3年結果）、経済産業省 工業統計調査



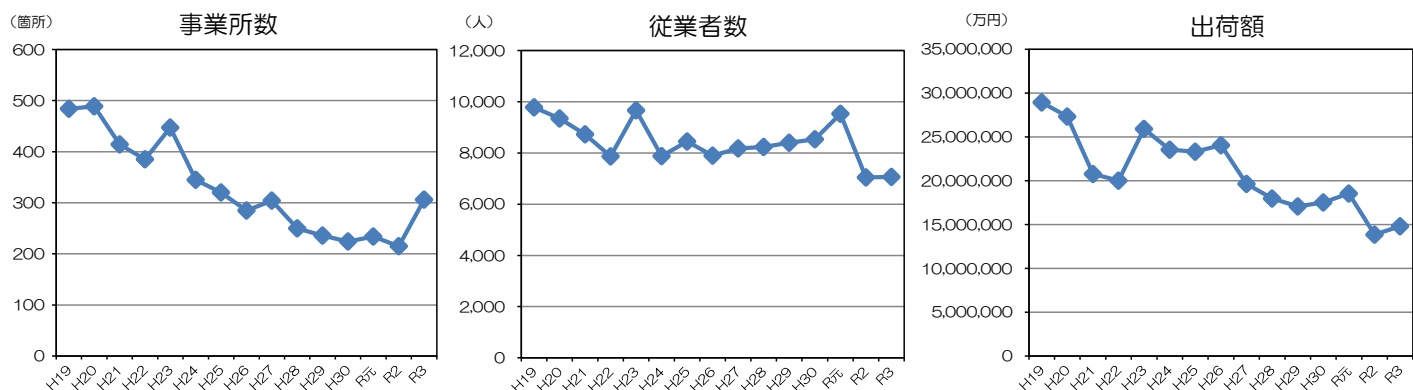
出典：経済センサス - 活動調査（令和3年結果）

図2.3.6 産業構成



出典：経済センサス - 活動調査（令和3年結果）

図2.3.7 産業別就労人口・構成



出典：経済産業省 工業統計調査

図2.3.8 事業所数、従業者数、出荷額の推移